

# 総合計画推進委員会審議結果

## 1 第5期総合計画重点施策

### 重点項目 1

#### 【農商工親連携の推進】

- ・道の駅を含めた魅力発信エリアの前面道路は交通量が多くスピードが出やすいバイパスで、片側2車線の中央分離帯がある道路構造となっているが、中央分離帯に切れ目を作ることや左折専用道路を整備すること等、利用者の増加に向けた安全対策が必要ではないか。
- ・道の駅が高速道路のインターチェンジの南側に移転することで、市街地から魅力発信拠点がなくなってしまう。十勝川温泉やインターチェンジに魅力発信拠点があると観光客は利用しやすくなるが、地域住民のことを考えると市街地に魅力発信拠点があってもいいのではないか。
- ・音更町の魅力を発信できるような道の駅にするためには、民間事業者との契約にあたり、できるだけ地場産品を活用してもらう等のルールやガイドライン作りが必要ではないか。

### 重点項目 2

#### 【交流人口の増加に向けた観光振興事業の推進】

- ・外国人の観光客に支えられて彩凜華の入場数が増えていることもあり、海外に向けてPRする必要がある。十勝川温泉をPRするためにドローンで撮影したプロモーション動画を発信する等SNSを活用した取組を行っているが、今後においても、海外向けの発信手段として効果的であるSNSを活用したPRを継続する必要がある。
- ・音更町と池田町が連携したオリジナルの特産品開発の内容について、レシピの開発、町内の飲食店による料理の提供、加工品を町外で販売する6次産業的な取組み等様々な方法が考えられるので検討する必要がある。

### 重点項目 3

#### 【防災対策の充実】

- ・平成28年台風10号の災害時に、避難所である緑南中学校へ通じる北2線道路に避難者が集中して渋滞が発生したことで、避難に時間がかかった。交通整理等によって空いている道路に避難者を誘導することができれば、渋滞が緩和されて短時間で避難できるのでは

ないか。

- ・災害時における避難所利用者の把握について、マイナンバーカードのICチップ等の電子情報を活用することで、受付の簡略化が図られるのではないか。
- ・ハザードマップを掲載している暮らしと防災ガイドブックは、ポスティングによる全戸配布及び転入手続時に配布しているが、他にも公共施設やコンビニエンスストア等幅広く設置を行えば、さらなる意識啓発にも繋がるのではないか。
- ・避難行動要支援者名簿について、新たに子どもが生まれたり転居したり家族の状況は変わるので、更新のサイクルを例えば1年ごとでできれば、より正確な情報を把握できるのではないか。
- ・避難所が長期化した場合、特に、授乳が必要な人や要支援者等への配慮が必要。また、町職員や自主防災組織だけでは人手不足が予想されるため、ボランティアセンターとの連携等が必要ではないか。
- ・災害時の避難等にあたり、外国人住民への配慮が必要ではないか。

#### 重点項目 4

##### 【義務教育内容の充実】

- ・ティーム・ティーチング事業について、少人数学級による教育を受けた側にどのような効果があったのかを数値として計測できる指標があれば、把握する必要があるのではないか。
- ・ティーム・ティーチング事業はふるさと納税の寄附金を財源としているが、少人数学級によるきめ細やかな教育は大事だと思うので、寄附額に左右されずに継続して実施して欲しい。

#### 重点項目 5

##### 【保育サービスの充実】

- ・働き方が多様化していることもあり、夜の時間帯に保育園を利用したい人のニーズが今後増えてくることが予想される。こうしたニーズの把握に努めて欲しい。
- ・十勝管内で中学生まで医療費を無料にしている自治体があり、また札幌市では人口が多い中で小学校1年生まで医療費を無料にしていると聞いたことがあるので、音更町でも検討して欲しい。子育てのしやすさが住居地の判断材料の1つになっていることから、人口対策としても効果があるのではないか。

### 【子育て支援拠点の充実】

- ・子育て支援センターは小学生以上の利用ができないことや、エコロジーパークは本町や木野市街地から離れているため子どもだけで遊びに行けないことなどから、市街地での子どもの遊び場の充実が必要ではないか。

## 重点項目 6

### 【コミュニティバスの利便性の向上】

- ・コミュニティバスの運行を知らない人もいると思う。利用者を増やすためには、利用したことのない人に対して周知が必要ではないか。
- ・子どもの利用に向けた周知が必要ではないか。また、子どもの半額料金に対応した回数券を販売してもいいのではないか。

## 重点項目 7

### 【健全な財政運営の推進】

- ・他自治体と比較することで町の特徴が見えてくることから、財政状況を住民に対して解りやすく伝えるための表現方法の1つとして、まちの台所に同規模自治体との比較のページを検討してもいいのではないか。

## 2 音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略施策

### 【観光による交流人口の拡大】

- ・魅力発信エリアの開設に伴いバイパスの安全対策が必要ではないか。
- ・道の駅が郊外に移転するが、市街地に魅力発信拠点があってもいいのではないか。
- ・町の魅力発信につながる店舗の出店となるようルール作りが必要ではないか。
- ・観光客の誘致に向けてSNSの活用を継続する必要がある。
- ・特産品開発に向けて検討する必要がある。

### 【出産と子育てを支援する環境づくり】

- ・少人数学級の効果を数値化できる指標があれば把握が必要ではないか。
- ・ティーム・ティーチング事業の継続に向けて財源を確保してほしい。
- ・遅い時間に保育園の利用を希望する人が増えると予想されるので把握に努めて欲しい。
- ・医療費無料化の対象年齢を上げてほしい。

- ・市街地での子どもの遊び場の充実が必要ではないか。

#### 【老後も不安が生じない生活環境づくり】

- ・コミバスの利用者増に向けて利用したことのない人や子どもに対して周知が必要ではないか。

#### 【安全・安心なまちづくりの推進】

- ・災害時の渋滞対策として、空いている道路への誘導が必要ではないか。
- ・避難所利用者の把握の簡略化に向けて電子情報の活用が必要ではないか。
- ・防災の意識啓発に向けて暮らしと防災ガイドブックをコンビニ等に設置してみてもどうか。
- ・避難行動要支援者名簿の更新サイクルを早める必要があるのではないか。
- ・避難所が長期化した場合、ボランティアセンターとの連携等が必要ではないか。
- ・災害時の避難等にあたり、外国人住民への配慮が必要ではないか。

### 3 その他の意見

- ・全町民の中から対象者を抽出して調査するまちづくり町民アンケートの結果を目標指標の数値として使用しているが、指標によってはもう少し対象者を絞って調査した方が正しく評価できるものもあるのではないか。